

「主にある一致を保ち」 ピリピ2：1～4

I 主にある一致の大切さ→「こういうわけですから」：1。1：27－30にあるように、キリストの福音を伝える時、反対や迫害や霊的戦いがあるのだから、主にある教会は主にある一致を保ち、志を一つにする事が大切。主にあって一つになることは、神の救いの御目的であり、またそれが、世が神が救い主を遣わされた事を信じるための良き証し→「父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためです」（ヨハネ17：21）。

II 主にある一致を妨げるもの。1. 「自己中心（原語：党派の歓心を買う事、野心、競争心、党派心、利己心、利己主義、我欲、争い、喧嘩、反抗心）」：3。我が強く、互いに他を尊重することなく自分の意見だけを押し通そうとする、自分の考えに頑固に固執する。他の人の意見に耳を傾けない。主を中心とせず、自分達の派を作る。悪口で一致する分派。それらにより、主にある大切な一致が壊れる。聖書的対処：「分派を起こす者は、一、二度戒めてから、除名しなさい」（テトス3：10）。2. 「虚栄（原語：「空の、内容のない、空虚な」と「栄光、榮譽、名声」の合成語。虚栄心、形容詞：つまらない事を自慢する、うぬぼれの強い）」：3。神の栄光ではなく、自分の栄光、榮譽、名声を求める心。これらの虚栄心は、神の栄光をほめたたえる教会の一致を壊して行く。主は、私達のこれらの罪の為に十字架で死ぬためにクリスマスにこの世に来られた。感謝！

III 主にある一致を保つもの。1. 「キリストにある励まし（原語：「そばに、傍らに」と「呼び寄せる、招き」の合成語。「愛の慰め」、「御霊の交わり」、「愛情とあわれみ」。①キリストは、私達をそばに呼び寄せ、励まし慰めて下さる→御臨在、御言葉、人々、出来事を通して。主は私達が苦しむ時いつもそばにおられる。インマヌエルの神。②父なる神は、私達を心から愛しておられる。「わたしたちが神を愛したのではなく、神が私達を愛し、私達の罪のために、なだめの供え物（私達の身代わりの死）としての御子を遣わされました（クリスマス）。ここに愛があるのです」（Iヨハネ4：10）。③聖霊なる神は、主を信じる私達の心に生まれ、親しく私達と交わられる。私達の罪を心に示し、主を信じる信仰を与え、非常につらい時も御言葉や御臨在を通して深く慰め励まして下さる。父、子、聖霊なる三位一体の神の愛、恵みを受けて初めて→「私の喜び（パウロは、獄中にいても彼の喜びは、神ご自身であり、主の教会が一致していることだった）が満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つに」（：2）することができる。「一致を保ち」＝直訳：「同じことを思い続け」。同じ神（父、子、聖霊）のことを思い続ける時、真の一致を保てる。2：6－8の主のへりくだりと愛と従順の姿を思う。「同じ愛の心を持ち」＝同じ神から愛される愛を持ちながら一致を保つ事ができる。「心を合わせ」＝間違っただけで心を合わせるのではなく、主に心を合わせる。その結果、主にある一致を保つ。「志を一つにしてください」＝私達の志は一つ→「主に喜ばれる事」。「主に喜ばれることが何か見分けなさい」（エペソ5：10）。これを祈り求めつつ一致を保つ。3. 「へりくだって（原語：謙遜。動詞形：低くする、へりくだる、当然の権利を放棄する）」：3。自分自身を低くする。主の御心なら、自分の権利を放棄する。これは、私達の力ではできない。私達は神からの力を自分の力と誤解し高ぶり易

く、自分のなすべき事、義務を果たすより自分の権利に執着し易い。へりくだりの秘訣は、クリスマスにへりくだられた主（神と等しくある権利を主張されず、私達の罪の為に死ぬために最高にへりくだり人となられた）を静かに見つめる事。また、へりくだる秘訣は、自分の罪と弱さを心から認める事→「だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思うなら、自分を欺いているのです。おのおの自分の行い（その動機も）をよく調べてみなさい。そうすれば、誇れると思ったことも、ただ自分だけの誇りで、ほかの人に対して誇れることではないでしょう」（ガラ6：3，4）。へりくだったパウロの告白：『キリストは・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた』ということばは、まことであり、そのまま受け入れるのに値するものです。私はその罪人のかしらです（テモ1：15）。「私たちが滅びうせなかつたのは、主の恵みによる」（哀3：22）。心から感謝！4。「互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい」：3。これも自分の力ではできない。罪の心を持つ私達は、人の優れたところを認めるよりも、人の欠点をあら捜しし、責める。人を悪く言いふらしたりする。しかし、主から愛をいただく時、愛の神は、互いにそれぞれに優れた点を与えておられることに目が開かれる。自己卑下ではなく自己受容する。神の目に高価で尊い存在。人を悪く言い、見下げる者ではなく、人の優れた点を見つけ、引出し、励ます者に神は変えて下さる。互いに人を自分よりも優れた点、賜物を神から与えられていると認め合う。神はそれぞれに違う優れた点、賜物を与えておられる。それを神の栄光、教会の建て上げの為に用いたい。5。「自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい」：4。いつも自分のことだけを考える自己中心なら、主にある一致を壊す。また、自分の事を少しも顧みず、大切にしないなら自分が倒れてしまう。与える事と受ける事のバランスが大切。しかし主から愛をいただいて、主が私をも愛し、そして他の人も愛しておられることを認め、自分のことだけでなく他の人のことも顧みる（原語：目を注ぐ、見守る、心にかける）。互いに相手の事を心にかける、目を留め、配慮し、主にある一致を保つ。祈り：罪人である私達のことを顧み、この世に来られた主イエスのへりくだりと愛を心から感謝します。